

# 令和3年度 学校自己評価システムシート (県立坂戸高等学校) 令和4年3月2日更新

目指す学校像	文武に秀で、地域に愛され、国際感覚豊かな人材を育てる学校
--------	------------------------------

重点目標	1 確かな学力の向上と高い志を育む教科指導と進路指導の充実 2 リーダー育成を図る特別活動と部活動の充実 3 開かれた魅力ある学校づくりの推進
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価	
年 度 目 標	年 度 評 価 ( 1 月 3 0 日 現 在 )

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	<p>(現状) 感染防止策による自習室の利用制限や休校が続いたが、GoogleClassroomを十分に活用した指示・連絡が徹底されたことで、家庭での学習サイクルをある程度意識付けることができた。また、ICT機器の効果的な活用と教員個々の授業改善につなげるため、教科内での授業研究や研究協議を強化する必要がある。</p> <p>(課題)            ①家庭学習の習慣化を基本とし、自学自習の姿勢を入学時から意識付けさせる必要がある。            ②教科会を中心とした教員の学び合いを授業改善につなげてく必要がある。大学入試改革、新学習指導要領への対応を踏まえた授業計画のカリキュラムマネジメントを推進する。</p>	<p>①<b>自学自習の意識付け</b></p> <p>②<b>質の高い授業実践のための組織的な授業改善の取り組み</b></p>	<p>①朝・放課後自習、隙間時間学習を奨励し、学校生活手帳を活用した時間管理を進める。</p> <p>②各教科内で授業アンケートを実施・共有し、研究協議に発展させることで授業改善を行う。            ②指導法や教材の共有化や全教科の定期考査の統一化により、評価の改善を進める。</p> <p>※県教委指定事業：「主体的・対話的で深い学びを実現する校内組織マネジメントの向上」            ※「教育課程研究事業(総合進学指導拠点校)」</p>	<p>①朝学習の参加数の把握により、月毎の平均推移に増加傾向が見られたか。            ①学習時間調査を実施し、各学年数以上の学習時間の確保がされているか。</p> <p>②教科内で学び合いが進み、情報が共有されたことで、教員個々の授業法に変化を生じたか。            ②授業改善に向け、授業公開を年3回以上、自主的な授業研究、さらに組織的な研修会及び研究協議を実施できたか。            ②全教科において定期考査の統一化により評価を改善し、併せて3観点別評価の在り方について協議できたか。</p>	<p>①朝学習参加者は考査期間中に集中する傾向にあるが、調査により徐々に増加傾向が見られた。            ①生徒実態調査(7,10月実施)により、家庭学習と部活動の両立に苦戦する生徒が見られる(15%)。            ②分散・時差登校期間中、ハイブリッド型授業を実施(オンライン同時配信授業)。授業を止めず、授業時間を確保することができた。(9月)            ②ハイブリッド型授業実施に向けた職員研修会実施(2回)。多くの教員のスキルアップに繋がった。            ②新教育課程に向けた評価の方向性について検討することができた。</p>	A	<p>実態調査によると、生徒の学習習慣の定着には課題が残る。「生活記録表」や「模試ノート」を活用に向けた指導(可視化の意義)について教員間で共通理解必要であり、その指導の徹底が求め得られる。            また「観点別評価」の本格実施に向け、評価の充実とその質を高めていく必要がある。            一方、授業公開ボードを設定したことにより、年次研修教員を中心とした学び合いが進んだ。主体的な学びの機会として継続的に実施していきたい。</p>
	<p>(現状) きめ細かな進路指導体制により、生徒の授業理解度・学校満足度が8割を超え、さらに保護者の進路への関心は高い。しかし、最後まで受験に向かう姿勢が育成しきれていない現状にある。</p> <p>(課題)            ①国公立大及び難関私大への進路実現等、首都圏大学定員厳格化への対応のため、最新情報に基づく適切な指導体制を充実させ、さらにきめ細かい指導を行う必要がある。            ②生徒自身が主体的に問題解決する能力の育成強化が必要である。</p>	<p>①<b>難関大学への進学を目標とした組織的な進路指導の取組と持続した高い志の育成</b></p>	<p>○各種模試の結果分析をもとに指導方法の工夫・改善を行うとともに、個に応じた進路指導を行う。また、部顧問とも連携を密にし、多方面から生徒の指導・支援を行う。</p> <p>○教員の進路指導力を向上させる取組を構築する。</p> <p>○令和4年度実施に向けた「(仮)坂高探究(総合的な探究の時間)を組織的・計画的に進める。</p>	<p>○共通テストの受験者割合90%以上、進路目標校を「国公立大学及び難関私立大学」に設定し、国公立20人以上、中堅以上の私立大学60人以上の合格及び、希望進路の実現を目指させることができたか。</p> <p>○坂高総探プロジェクトチームを発足し、次年度に向け、組織的に進めることができたか。</p> <p>○「坂高生に身につけさせたい力」を主軸にした指導案の作成が構築できたか。</p>	<p>○共通テストは88%の生徒が受験。国公立大学受験者は47名となり、昨年と比較して大幅に受験者数の増加が見られた。            ○(仮)坂高探究実施に向け、外部機関と連携体制を構築することができた。            ○大学見学会に代わる代替行事(分野別説明会、大学体験授業等)の実施。            ○生徒の状況に応じて適宜個別面談を実施。            ○実力テストの個人の振り返りと学校全体としての結果分析会を実施。</p>	B	<p>感染症対策を講じる中、できる範囲で教育活動(学校行事、進路行事及び国際理解行事等)を実施することができた。活動を通して生徒の着実な成長が見られた。しかし、生徒自身が高い志を掲げ、絶え間ない努力を続けるためには、教員の指導の工夫とそのための支援が必要である。            生徒の実態に即したキャリア教育の実践に向け、各方面から情報共有をしていきたい。</p>
2	<p>(現状) 真面目で落ち着いた学習や部活動に励む生徒が多いが、自ら探求し積極的に行動に移すといった行動力が乏しい。日頃から進路実現に向け、学習と部活動の両立を指導しているが、保護者との連携・協力は今後も必要である。</p> <p>(課題)            ①これまでの学校行事を見直し、新たな学校行事の運営方法と業務内容の精選を行う。            ②規律ある学校生活と高い協調性、適応力を育むために学校行事や部活動等の充実と教育相談の適切な対応を強化する</p>	<p>①<b>教育活動の様々な場面を活用した坂高生に「身につけさせたい力」の育成強化</b></p> <p>②<b>生徒の自己管理能力の向上</b></p>	<p>①教職員間で「坂高生に身につけさせたい力」を共有し、生徒・保護者へ情報発信していく。            ①全ての教育活動において「坂高生に身につけさせたい力」を意識した指導の徹底を行う</p> <p>②部活動顧問の協力を得て、進路保証を含めた指導体制を構築する。</p> <p>②生徒手帳の活用を進めた自己管理能力を育成し、教員間の情報共有を行いながら個に応じた的確な指導方法を検証していく。</p>	<p>①「坂高生に身につけさせたい力」が生徒・保護者に浸透しているか。            ①「意識的に自らの行動変容を起こした」と回答した生徒が70%以上あったか。            ②「学校生徒手帳等を活用し、自己管理と計画的な学校生活を送っている」と回答した生徒が70%以上あったか。            ②教員の生徒指導力向上を行いつつ、担任と関係教員間の生徒情報と保護者と連携を進め、効果的な教育相談を行うことができたか。</p>	<p>①教員研修会を実施し、「生徒に身につけさせたい力」を整理。「坂戸高ゲテュエーション・ポリシー」として学校HPに周知(予定)。            ②生徒手帳等を活用して、学習記録を取り、意識的な時間管理ができる生徒20%程度。(10月実施)            ②教育相談件数のべ14件(保護者含む)。教員の生徒の実態把握が適宜行われ、校内の教育相談的機能を十分活かすことができた。</p>	B	<p>○坂高生としての自覚と誇りをもち、行動・言動に責任を持たせたい。社会のリーダーとして活躍するためには、在学中に生徒主体による活動経験の蓄積が必須である。生徒による自治活動や委員会活動等、多方面から活躍できる場の拡大を検討していきたい。また、生徒の抱える問題の多様化している。状況を見極め、保護者と連携しながら適切な生徒指導が求められる。</p>
3	<p>(現状) 生徒募集を意識した情報発信を行ったが、学校行事が中止としたことで本来あるべき学校の教育活動が十分に情報発信できなかつた。今年度入試では、本校の特色である外国語科で定員割れとなった。スマート連絡帳やGoogle classroomを連動させ連絡体制の徹底ができたが、保護者面談の機会を十分に確保ができず、アンケートでは満足度に生徒と差異が生じた。また、例年通りに教育活動が進まなかつたからこそ、脆弱な組織体制が浮き彫りとなった。</p> <p>(課題)            ①中学生や保護者のニーズに合わせたHPを構築すると同時に、「外国語科」の魅力積極的に情報発信し生徒募集につなげる。            ②教育活動の「見える化」を徹底し、地域や保護者への的確な情報発信を積極的に進める。</p>	<p>①<b>魅力ある教育活動の情報発信と組織力強化</b></p> <p>②<b>保護者への適切な情報提供と連携強化</b></p>	<p>①風通しの良い職場環境づくりと教職員全体で教育活動を支える機会を構築する。            ①HPの情報(行事・学科・部活動等)を常に見直し、リアルタイムの情報発信を積極的に行う。            ①学校説明会の在り方と内容を見直し、ニーズに合った情報発信と現状に応じた情報提供を行う。            ②教育活動の「見える化」を促進し、さらに保護者と共に「進路を考える会」を運営していく。</p> <p>②地域連携や異校種交流を計画的に進め、学校理解につなげる。</p>	<p>①関係分掌等の密な打合せにより滞りなく教育活動が進んだか。            ①HPにおける活動状況の更新が定期的に行われたか。            ①学校説明会を利用したアンケートを実施し、ニーズにあった情報発信(HP構成)ができたか。            ①新入生アンケートを実施し、生徒募集対策の戦略を講じることができたか。            ②保護者面談や「進路を考える会」等の機会を通して学校理解が深まり、保護者の満足度が昨年度より向上したか。            ②異校種交流の内容を精選することで本来の教育活動を充実させることができたか。            ②感染防止策を講じながら50周年記念式典を成功させることができたか。</p>	<p>①企画委員会では適宜関係者を交えて打合せを実施したことで、円滑な教育活動を進めることができた。            ②HPの迅速な更新などを通して、外部に情報発信を積極的に行った。            ①新入生アンケート及び中学生のニーズから、学校説明会の実施方法を工夫した。全体説明会3回、部活動体験会3回の他、部活動見学会、説明会及び相談会を追加して実施(11~1月)。            ②「第1回進学を考える会」参加(1年:182名、2年:208名、3年:126名)PTA進路委員と連携して実施(11月)。第2回は録画配信(2月)。            ②50周年記念式典は感染症防止対策のため中止とし、校長講話実施した。(10月)</p>	A	<p>○地域の中学校卒業生数の減少や私立高校との競合等、集約した情報は有益であった。そのような中で、今年度は生徒募集の新たな試みとして、授業見学(土曜授業)を実施した。次年度は、本年度の生徒募集の在り方を総合的に評価・検証していく必要がある。            「地域の進学校」として本校の果たす役目として多様な学びと部活動や学校行事等の特別活動の充実が求められる。さらにまた、「外国語科」の特色・魅力を十分に発信するため、新たな施策を講じていきたい。</p>

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和4年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等

学びを止めないためのハイブリッド授業の取組は素晴らしい。大変なご苦労があったことと思うが、生徒・保護者のアンケートから評価されていることが伺える。今後も同様な状況下で学校生活が進んでいくことも考えられるため、よりブラッシュアップしていくと良い。  
 家庭学習の定着が生徒の進路実現に向かわせる第一歩となる。魅力ある授業を展開されている先生方が多く、頼もしく感じている。今後も生徒の学力向上に向け、教材研究に励んで欲しい。

生徒を一堂に会して集会や講演会等の実施が難しい状況にある。そのため、情報理解や浸透性に差異を生じやすいが、工夫をして生徒・保護者に情報提供を重ねている。外部機関との連携体制も制限がある中、最大限に取組んでおり、素晴らしい教育活動を展開している。  
 また、生徒の学びを校内だけに留めず、外部の力を借る等して、生徒の学びを一層深める取組を期待したい。

「生徒に身につけさせたい力」を可視化し、校内で共有することは素晴らしい。しかし、保護者や地域に浸透させるためには工夫が必要である。学校側が感じている以上に理解していないケースが多い。坂高の魅力を生徒に発信し、浸透させるための知恵を出し合って工夫して欲しい。  
 また、部活動がより活性化していくためには「生徒に教える」ではなく、「生徒に考えさせる」に重きをおくことが重要である。生徒の主体性を引き出すための指導に一層励んで欲しい。

学校のPRに良く努めている一方、外部発信に最も効果的なホームページの構成に工夫を要する。中学生はもちろん、その保護者はホームページから情報を得ているため、情報が取出しやすく(理解しやすく)、観やすい構成を心掛けたい。現役生徒向け・保護者向け・中学生向け等々、ページ校正及び情報の整理を願いたい。  
 また、各種アンケート結果を真摯に受け止め、課題を共有し、改善に向けた一歩とすることが学校の教育力向上へとつながっていく。生徒の生活環境がより豊かなものとなり、その分学校への要望や意見は過剰になりつつあるが、状況に応じて校内の学習環境を整備していくことも必要である。